令和元年度　宇都宮市立城山中央小学校　学校評価書

※　網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1　教育目標（目指す児童像含む）

基本目標　健康で豊かな心を持ちたくましく生きる子どもを目指して，感性を磨き，社会的知性と実践力を身に付ける

目指す児童像　・進んで勉強する子ども（かしこく：知）

・思いやりのある子ども　・喜んで働く子ども（なかよく：徳）

・健康で明るい子ども（たくましく：体）

2　学校経営の理念（目指す学校像含む）

今年度のテーマ　「みんなが　楽しく　城山中央小学校」

～ 子どもが楽しく，教師が楽しく，保護者が楽しく，そして地域が楽しく ～

〈児童にとって〉　・学ぶ楽しさ・仲間がいる楽しさ・学校の楽しさのある学校

〈保護者・地域にとって〉　・通わせる楽しさ・協力する楽しさのある学校

〈教師にとって〉　・教え・導く楽しさのある学校

3　学校経営の方針（中期的視点）　※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に〇印を付ける。

(1) 城山中央小学校の歴史と伝統を踏まえ，長年にわたって築いた教育の精神や校風を継承し，その発展に努める。

(2) 〇学校経営の中核に児童の確かな学力の定着を位置付け，基礎基本を確実に習得させ，課題解決に必要な資質能力を育てる。

(3) 〇規範意識と他者を思いやる豊かな心を育み，活動の源となる体力の向上に努める。

(4) 家庭・地域社会との連携強化に努めるとともに，家庭・地域の教育力を生かした教育活動を充実させ，地域に根ざし開かれた「地域に信頼され，地域の核となる，活力あふれる城山中央小学校」の実現に努める。

(5) 高い指導力と専門性を身に付け，強い使命感や情熱を持って授業力・学級経営力を向上させるとともに，和と協働の精神を大切にして，チームとしての学校の力を高めていく。

(6) 校内の業務の適正化を図るとともに，ワークバランスを意識しながら職務を遂行する。

(7) 城山地域学校園教育ビジョンにのっとり，小中一貫教育を推進するとともに，学校園内各小中学校との連携による地域一体の教育を推進する。

[城山地域学校園小中一貫教育ビジョン]　～ともに学び合う城山っ子を育む地域学校園～

学校園内小中学校が連携し合い，地域の教育力を生かしながら，「自他を尊重し，郷土に愛着を持ち，諸活動を通して互いに高め合う児童生徒」の育成に努める。

[城山地域学校園小中一貫教育スローガン]　合言葉は「愛」

みんなで育てよう！自分を愛し，仲間を愛し，地域を愛する城山っ子

4　教育課程編成の方針

日本国憲法，教育基本法，学校教育法及び施行規則，小学校学習指導要領，栃木県「幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校指導の指針」，「第２次宇都宮市学校教育推進計画」・「第２次宇都宮市学校教育スタンダード」・「平成３１年度指導の重点」の示すところに従い，本校教育目標達成のための学校経営方針や努力点，学校評価の反省を十分踏まえて編成する。

5　今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に〇印を付ける。

【　学　校　運　営　】　〇学ぶ楽しさ，豊かな心の育成を目指した，和と協働の学校づくりの推進

～ みんなが楽しく，城山中央小学校 ～

【　学　習　指　導　】　主体的に学び，自分の考えを生き生きと表現する児童の育成

【 児 童 生 徒 指 導】　〇思いやりの心を持ち，決まりやルールを守り，主体的に行動できる児童の育成

～ 児童と児童，児童と教師のコミュニケーションをより深めることを通して ～

【健康（体力・保健・食・安全）】　自分の体に関心を持ち，健康に留意しながら目標に向かって意欲的に運動する児童の育成

～ 教科体育や体育的行事の充実と児童が体を動かしたくなる体育的環境の整備を通して ～

６　自己評価（評価項目のＡは市共通，Ｂは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に〇印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には，A拡充　B継続　C縮小・廃止，を自己評価時に記入する。

<table>
<tr><th>項目</th><th>評価項目</th><th>主な具体的な取組</th><th>方向性</th><th>評　価　：　↑・↓は前年度との比較</th></tr>
<tr><td rowspan="3">目指す児童の姿</td><td>Ａ１　児童は，進んで学習に取り組んでいる。
【数値指標】
全体アンケート
「児童は，授業中，話をしっかりと聞いたり，発表したりするなど，進んで学習に取り組んでいる。」
⇒児童の肯定的回答
90%以上
⇒教職員の肯定的回答
90%以上</td><td>①　基礎・基本の確実な定着を図る。
・朝の学習の時間における指導内容や体制の充実
・算数における習熟度別学習等の工夫
・話の聞き方や発表の仕方などの徹底
・「城央小の学習のきまり」に基づいた基本的な学習態度の徹底
②　児童の学習意欲を高め，共に学び合う授業の展開を図る。
・興味・関心を高めるための課題提示や活動の内容の工夫
・進んで話し合う活動や学び合いの場の工夫</td><td>B</td><td>【達成状況】
<table><tr><td>児　童</td><td>９４．５%　↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>９５．０%　↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>１００　%</td></tr></table>授業中，教師の話をよく聞いたり，友達と話し合ったりするなど，意欲的に学習に取り組む姿勢が見られた。
【次年度の方針】
・基礎・基本の学力が高められるよう，朝の学習の時間を充実させる。また，自分から課題意識を持って主体的に学習に取り組めるようにしていく。</td></tr>
<tr><td>Ａ２　児童は，思いやりの心をもっている。
【数値指標】
全体アンケート
「児童は，誰に対しても，思いやりの心をもって優しく接している。」
⇒児童の肯定的回答
90%以上
⇒教職員の肯定的回答
90%以上</td><td>①　一人一人を大切にする人権教育を推進する。
・人権感覚・人権尊重の態度の育成を目指した指導の充実
・教師一人一人の意識の高揚
・人権週間・いじめゼロ運動の効果的な実施
②　望ましい集団・居がいのある学級づくりに努める。
・学級活動や「みんなで遊ぶ日」の時間の工夫と充実
・縦割り班活動の工夫と活性化
・状況に応じた言葉遣いの励行</td><td>B</td><td>【達成状況】
<table><tr><td>児　童</td><td>９６．６%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>９５．１%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>８６．７%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>１００　%</td></tr></table>全体的に，肯定的回答の割合が高かった。教職員は児童一人一人に目を配り，互いのよさを認め合う場を設定し，楽しい学校・居がいのある学級づくりを継続して推進してきた。
【次年度の方針】
・児童に接する教職員の言動が大きく影響することから，教職員の人権感覚・人権意識を高いレベルで維持できるよう，研修等の機会を設ける。
・問題が生じた場合は，学校全体で問題を共有し，組織的に対応していく。</td></tr>
<tr><td>Ａ３　児童は，きまりやマナーを守って，生活をしている。
【数値指標】
全体アンケート
「児童は，きまりやマナーを守って，生活している。」
⇒児童の肯定的回答
85%以上
⇒教職員の肯定的回答
90%以上</td><td>①　基本的生活習慣と規範意識の育成に努める。
・生命や人権尊重を題材とした授業（道徳・学級活動等）の実施
・「城央小のよい子」を活用した，統一的・継続的な指導
②　家庭・地域・関係諸機関と連携を図る。</td><td>B</td><td>【達成状況】
<table><tr><td>児　童</td><td>８７．０%　↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>９２．５%　↑</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>８６．７%　↓</td></tr><tr><td>教職員</td><td>９０．９%　↓</td></tr></table>日々の教育活動を通して，基本的生活習慣と規範意識の育成に努め，児童・教職員の肯定的回答が数値目標を上回った。
【次年度の方針】
・「城央小のよい子」をベースに，全職員の共通理解のもとで指導・支援にあたり，児童一人一人がきまりやマナーを守って生活できるよう，根気強く取り組む。</td></tr>
</table>

目指す児童の姿	Ａ４　児童は，時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は，時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 80%以上	①　児童が主体的に取り組む「あいさつ運動」を推進する。 ・家庭及び地域協議会と連携した地域ぐるみの「あいさつ運動」の展開 ・小中合同の「あいさつ運動」の推進 ・クラス単位の「あいさつ運動」の実施 ②　家庭・地域への広報活動を工夫する。 ・ホームページでの周知	Ａ	【達成状況】 児　童　９２．９％　↑ 保護者　７７．１％　↑ 地域住民　８０．０％　↑ 教職員　９０．９％　↑ 学校と家庭・地域が連携してあいさつの習慣化に努めてきたことで，昨年度よりも肯定的回答の割合が増えた。しかし，保護者の数値目標は下回った。 【次年度の方針】 ・様々な機会を通して，保護者に協力を呼び掛け，各家庭におけるあいさつの習慣化を推進する。教職員は，日々の生活場面での指導に根気強く取り組む。
	Ａ５　児童は，目標に向かってあきらめずに，粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は，夢や目標に向かってあきらめずに，粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	①　道徳科を核として，教育活動全体を通した指導に努める。 ・折れない心・やり抜く心など心のたくましさに気付かせる授業の展開や実践の工夫 ・各種検定等，児童が目標をもって取り組める機会の確保 ②　児童の自己肯定感の育成に努める。 ・児童が互いに認め合う場の設定 ・認め励ます指導の徹底	Ｂ	【達成状況】 児　童　９０．３％ 保護者　７９．６％ 地域住民 教職員　９５．５％ 教育活動全体を通して，児童一人一人がそれぞれの目標を持って活動できるよう，指導に当たってきたため，児童・教職員ともに，数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・児童の自己肯定感がさらに高まるよう，児童が互いに認め合う場を設定し，教職員が認め励ます指導に取り組んでいく。
	Ａ６　児童は，健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は，健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	①　健康の保持増進を図る。 ・自己の基本的な生活習慣を見直し，改善が図れるような指導の工夫と児童や保護者への啓発 ・養護教諭と連携した保健の授業の実施 ②　各自の運動目標に向けた運動の推奨 ・各種検定や全校で取り組む強化月間の実施 ・体育の授業，体育的行事を核とした体力づくりの実践 ・元気っ子健康体力チェックの活用 ③「食に関する指導」の充実を図る。 ・学校栄養士と連携した各教科や特別活動等における食育の実施 ・児童の実態や発達段階に応じた指導の実施 ・「すこやか教育」の実施 ・「食育だより」等を活用した食への関心を高める工夫 ③　日常指導における安全教育の充実に努める。 ・地域と連携した登下校時の安全確保 ・交通安全教室や各種避難訓練等の適切な実施	Ｂ	【達成状況】 児　童　９３．３％ 保護者　８６．６％ 地域住民　９３．３％ 教職員　１００　％ それぞれの分野での取組の結果を通して，児童の意識がさらに高まり，健康で安全な生活を心掛けるようになり，一定の評価を得ることができた。 【次年度の方針】 ・全校体制で，保健教育，給食指導の共通理解を図り，各たよりの有効活用を継続して行う。また，発達段階に合わせて，各教科，学級活動における養護教諭や学校栄養士と連携した授業を実施する。 ・運動の推奨については，体育の授業でのがんばりカード等の活用により，具体的な目標を持たせ，自分の健康や体力に関心を持たせる。また，元気っ子チャレンジ，ミニマム等の目標も児童に意識させ,継続的に体力向上に取り組めるように支援を続けていく。 ・登下校については，地域と連携した登下校指導を継続していく。 ・健康で安全な生活について，日常生活の中で常時指導を続けていく。

目指す児童の姿	Ａ７　児童は，夢や目標をもって，社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は，夢や目標に向かってあきらめずに，粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上	①　宮・未来キャリア教育の推進を図る。 ・年間指導計画の工夫改善 ・各教科・特別活動・総合的な学習の時間等との関連 ・家庭・地域・企業と連携した指導の充実 ②　地域学校園の重点目標を踏まえながら，小中交流を推進する。	Ａ	【達成状況】 児　童：９０．３% 保護者：７９．６% 地域住民： 教職員：９５．５% 各教科・特別活動・総合的な学習の時間等との関連を図ってきたため，児童の肯定的回答が数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・保護者の肯定的回答が低いことから，児童が頑張ったことや取り組めたことを保護者にも認め励ましてもらう機会を設けるなど，家庭と連携を図りながら取り組んでいく。
	Ａ８　児童は，英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は，外国語活動の授業やＡＬＴとの交流の際に，英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	①　外国語活動を推進し，コミュニケーション能力の育成に努める。 ・外国語活動の充実と英会話タイムの工夫 ・外国語活動の教材の充実・環境整備 ・日常的なＡＬＴとの交流の機会 ②　英会話タイムの充実を図り，進んで英語を使ってコミュニケーションしようとする態度を醸成する。 ・英会話タイムにおける活動の工夫 ・外国語活動を補完する内容の充実	Ｂ	【達成状況】 児　童：９４．１% 保護者： 地域住民： 教職員：１００　% 本校独自の英会話タイムの時間を設けていることで，自然と英語に慣れ親しみ，英語でコミュニケーションをしようとしている。 【次年度の方針】 ・外国語活動，外国語科，英会話タイムでのさらなる指導の充実を図っていく。
	Ａ９　児童は，宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は，宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	①　学習内容と宇都宮の良さの関連を図った指導の工夫に努める。 ・生活科・社会科・総合的な学習の時間や校外学習等における指導内容の工夫や改善 ②　児童が地元の大谷町を中心とした宇都宮の歴史・文化・伝統産業・特産物等についての知識や理解を深められるよう，授業の際に地域についての内容を取り上げられるようにする。	Ａ	【達成状況】 児　童：８３．６% 保護者：６１．３% 地域住民： 教職員：９０．９% 数値目標を下回っており，宇都宮の良さに対する認知は十分でない。 【次年度の方針】 ・社会や総合的な学習の時間を中心に宇都宮や地元・大谷の良さを知ることができる指導の充実を図る。
	Ａ10　児童は，ＩＣＴ機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は，ＩＣＴ機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	①　ＩＣＴの活用による授業の工夫をする。 ・パソコン室の効果的活用 ・デジタル教科書の活用 ・タブレット型パソコン・デジタル機器を活用した授業の展開 ・情報モラル教育に関する授業の展開 ②　学校図書館の整備・充実に努める。 ・学習内容の時期に合わせた関連図書の整備 ・市立図書館を利用した学級文庫や調べ学習用図書の充実	Ａ	【達成状況】 児　童：８２．４% 保護者：７１．６% 地域住民： 教職員：９５．５% タブレット型パソコンが導入されたことで，ＩＣＴ機器の活用をした学習をすることができた。 【次年度の方針】 ・プログラミング教育の着実な実践を行い，さらにＩＣＴ機器を活用できるようにしていく。

<table>
<tr>
<td rowspan="3">目指す児童の姿</td>
<td>A11　児童は，高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。
【数値指標】
全体アンケート
「児童は，誰に対しても，思いやりの心をもって優しく接している。」
⇒児童の肯定的回答
85%以上
⇒教職員の肯定的回答
85%以上</td>
<td>①　社会福祉についての理解と関心を高める。
・地域の高齢者や福祉施設との交流（まごころ会食・昔の遊び等）
・地域の福祉施設との交流（藹藹会）
②　高齢の学校支援ボランティアの方々への感謝の気持ちを育む。
・感謝の気持ちを込めた日々のあいさつの励行
・「地域の方への感謝の会」の実施</td>
<td>B</td>
<td>【達成状況】
児　童　９６．６%
保護者　９５．１%
地域住民　８６．７%
教職員　１００　%
まごころ会食や低学年の昔遊び体験，地域の方への感謝の会などを実施したことで，地域の高齢者への感謝の気持ちを育んできた。そのため，児童・教職員ともに数値目標を上回った。
【次年度の方針】
・今後も地域の高齢者や福祉施設との交流を図る機会を設け，児童自身が社会福祉についての関心を高める指導にあたる。</td>
</tr>
<tr>
<td>A12　児童は，「持続可能な社会」について，関心をもっている。
【数値指標】
全体アンケート
「児童は，環境問題や防災等の『持続可能な社会』について，関心をもっている。」
⇒児童の肯定的回答
80%以上
⇒教職員の肯定的回答
85%以上</td>
<td>①　環境問題への関心を高め，環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。
・節電・節水・リサイクル活動の実施
・「緑の少年団」活動を通した自然愛の醸成
・国語・社会・理科・総合的な学習の時間等における関連学習の指導の工夫
②　防災教育の充実を図る。
・土砂災害を想定した避難訓練の実施
・自然災害を取り上げた学習内容の工夫</td>
<td>A</td>
<td>【達成状況】
児　童　９２．９%
保護者
地域住民
教職員　５９．１%
児童が主体的に活動したり活躍したりできる場面が少ないと感じている状況があり，教職員の評価が低くなっている。
【次年度の方針】
・「持続可能な社会」に関心が持てるよう，各教科等の授業や様々な教育活動を通して，意図的に学ぶ場面を設け関心を高めていく。</td>
</tr>
<tr>
<td>B１　児童は，毎日家庭での学習時間を決めて，集中して取り組んでいる。
【数値指標】
学校独自アンケート
「私は，毎日，家庭での学習時間を決めて，集中して取り組んでいる。」
⇒児童の肯定的回答
80%以上
⇒保護者の肯定的回答
75%以上</td>
<td>①　<u>家庭と連携して，学習習慣の確立を図る</u>。
・「家庭学習のしかた」「自主学習のガイド」に基づいた，発達段階に応じた宿題や自主学習の工夫
・家庭学習の成果の評価と意欲の喚起
・「学習習慣定着強化週間」の定期的設定と家庭と連携した指導の工夫</td>
<td>B</td>
<td>【達成状況】
児　童　８１．１%　↑
保護者　７１．８%　↓
地域住民
教職員　９５．０%　↓
児童の達成感と保護者から見た児童の学習への取組姿勢に差がある。
【次年度の方針】
・集中して学習に取り組もうとする意識が高まるよう，指導の充実を図るとともに，保護者への啓発を図っていく。</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr>
<td>目指す児童の姿</td>
<td>Ｂ２　児童は，本に関心を持ち，読書を楽しんでいる。
【数値指標】
学校独自アンケート
「私は，楽しんで読書をしている。」
⇒児童の肯定的回答
85%以上
⇒保護者の肯定的回答
70%以上</td>
<td>①　読書活動の充実を図る。
・全校一斉，教師と児童の朝の読書の徹底
・必読書感想カードの実施・表彰
・ボランティアや教職員による読み聞かせの実施
・多読者賞の表彰
・家庭と連携した家読の推進
・読書リレー
・地区市民センターの利用方法の周知や朝読書の様子の紹介
・絵本の国の整備
・学校開放日に保護者への本の貸し出し</td>
<td>B</td>
<td>【達成状況】
児　童：８９．５％　↑
保護者：７１．４％　↑
地域住民：
教職員：１００　％
朝の読書やボランティアによる読み聞かせ，読書リレーの実施によって，進んで読書に取り組み，読書を楽しむ児童が増え，保護者も肯定的な回答が 3.3 ポイント増加した。
【次年度の方針】
・学校での読書の様子や取り組みを「図書館だより」や「学年だより」で紹介していく。
・学校開放日の保護者への貸し出しを，さらにお知らせする。</td>
</tr>
<tr>
<td rowspan="2">目指す学校の姿</td>
<td>Ａ13　教職員は，特別な支援を必要とする児童の実態に応じて，適切な支援をしている。
【数値指標】
全体アンケート
「教職員は，特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて，適切な支援をしている。」
⇒教職員の肯定的回答
90%以上</td>
<td>①　特別支援学級の充実を図る。
・個別の指導計画による指導の充実
・学級との交流や連携を図った指導の推進
②　特別な教育的支援が必要な児童への対応に努める。
・特別支援教育コーディネーターを中心とした教育支援委員会の開催と共通理解
・多様なニーズの理解と支援方法の明確化
・「かがやきルーム」の有効的活用の工夫
③　通常学級における個別の指導計画を活用した個の指導の充実を図る。
・学級における配慮児童の個別の指導計画の策定
・ケース会議による指導方針・成果と課題の明確化</td>
<td>B</td>
<td>【達成状況】
児　童：
保護者：
地域住民：
教職員：１００　％
支援を要する児童に対する教育支援委員会を随時開くなど，組織的な対応をすることができた。また，かがやきルームにおける個に応じた支援の充実を図ることもできた
【次年度の方針】
・特別な支援を要する児童の実態や保護者のニーズを把握し，適切な支援を行っていく。</td>
</tr>
<tr>
<td>Ａ14　教職員は，いじめが許されない行為であることを指導している。
【数値指標】
全体アンケート
「先生方は，いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」
⇒児童の肯定的回答
90%以上</td>
<td>①　「学校いじめ防止基本方針」に基づいた取組を推進する。
・「いじめ等対策委員会」の活用
・「いじめゼロ強調月間」の充実
・いじめ根絶集会の実施
・定期的なアンケートの実施と教育相談の充実
・<u>週番活動による見守り体制の整備</u>
・潤いのある学校環境の整備
・「さん」付けの呼び方の徹底
②　家庭・地域への広報活動を工夫する。
・学校便りやホームページでの周知
・道徳科の授業公開</td>
<td>B</td>
<td>【達成状況】
児　童：１００　％　↑
保護者：８３．９％　↓
地域住民：１００　％
教職員：１００　％
教職員は，いじめに対する危機意識を常にもって児童の指導にあたっており，児童も十分理解している。また，様々な取組の結果，指導の実態が保護者や地域住民にも理解されている。
【次年度の方針】
・児童の日々の生活の様子を的確に把握することによって，いじめに結び付くような諸問題を早期に発見し，迅速に対応する。問題が起きた場合は，その都度記録をとり，必要に応じて指導の経過を保護者に伝え，家庭と連携して指導にあたる。</td>
</tr>
</table>

目指す学校の姿	Ａ15　教職員は，不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生は，一人一人を大切にし，児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	①　不登校・不適応等特別な教育的支援が必要な児童への対応に努める。 ・日常の観察・教育相談・Ｑ－Ｕ調査等の実施による早期発見・早期対応 ・ケース会議等による支援方法の明確化 ・関係機関との連携と紹介 ②　児童の自己肯定感の育成に努める。 ・児童が互いに認め合う場の設定 ・認め励ます指導の徹底【Ａ５②再掲】	Ｂ	【【達成状況】 児　童：９８．７% 保護者：９１．９% 地域住民： 教職員：１００　% 教職員は，日頃から児童の様子を観察し，必要に応じて，児童支援委員会やケース会議を行い，学校全体で対応している。 【次年度の方針】 ・来年度も引き続き，的確に児童の様子を把握し，早期発見・対応に努め，家庭とも連携しながら児童に合った支援を取っていく。
	Ａ16　教職員は，外国人児童生徒等の実態に応じて，適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は，特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて，適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	①　外国人児童についての組織的な支援に努める。 ・全校での共通理解 ・必要な支援の検討・確認 ②　児童一人一人が，自分たちと異なる文化や言語等を認め合い，尊重できるような心の育成に努める。	Ｂ	【達成状況】 児　童： 保護者： 地域住民： 教職員：１００　% 教職間で，共通理解が図れ，保護者に対しても必要に応じた対応がとれている。 【次年度の方針】 ・来年度も引き続き，人権教育を通しながら，学校全体で共通理解を図りつつ，関係職員が適切に対応していく。
	Ａ17　学校は，活気があり，明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「私は，今の学校が好きです。」 ⇒児童の肯定的回答 90%以上	①　適正な学校運営に努める。 ・創意と調和のある「子どもを生かす」教育の実践 ・学校評価を生かした保護者，地域と一体化した学校づくりの推進 ②　児童・保護者・教師・地域の思いを把握し，学校運営に生かす。	Ｂ	【達成状況】 児　童：９２．０%　↓ 保護者：９３．９%　↓ 地域住民：１００　% 教職員：１００　% 達成状況は９０%を上回っているが，昨年度よりも下がってしまった。 【次年度の方針】 ・児童一人一人が楽しく学校生活を送れるよう，授業や特別活動の充実を図っていく。
	Ａ18　教職員は，分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い，学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく，一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒児童の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	①　学習指導の工夫・改善を図る。 ・計画的な朝の学習の推進と見通しを持った授業の推進 ・指導技術の確立と授業時数の確保 ・習熟度別学習や少人数指導・TT 指導等の効果的実施 ・学習内容定着度調査などの活用 ・かがやきルームの有効活用及び指導体制の充実 ・授業力向上のための校内研修の充実 ②　家庭・地域への広報を充実させる。 ・学校だより，ホームページ等による学習についての情報提供	Ｂ	【達成状況】 児　童：９７．９%　↓ 保護者：８５．６%　↓ 地域住民： 教職員：１００　% きめ細かな指導についての理解が不十分である。 【次年度の方針】 ・めあての提示・振り返りの実施とともに，学習指導の工夫・改善を図り，児童にとってより「分かる授業」を目指したきめ細かな指導を行っていく。

目指す学校の姿	Ａ19　学校に関わる職員全員がチームとなり，協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる職員全員がチームとなり，協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	①　和の精神を大切にし，職員が互いに助け合いながら一丸となって業務に取り組めるように工夫する。 ・学校の諸問題への組織的な対応 ・学校行事の準備・運営等への協力 ②　協働の精神を大切にし，日頃の業務について気軽に相談し，助け合える環境づくりに努める。 ・職員の得意分野を生かした組織づくり ・打合せやコミュニケーションを図る時間の確保	Ｂ	【達成状況】 児　童 保護者 地域住民 教職員　１００　％ 学校に関わる職員は，行事の準備等を協力して行っていた。また，様々な問題に対して相談し合って対応していた。 【次年度の方針】 ・来年度も引き続き，気軽に相談できる環境づくりに努め，報告・連絡・相談を確実に行っていく。
	Ａ20　学校は，教職員の勤務時間を意識して，業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は，教職員の勤務時間を意識して，業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	①　校内の業務の適正化・効率化を図る。 ・業務内容の明確化 ・学校の組織運営や各種行事等の実施方法の工夫・改善 ・学習情報システム等の各種システムの効果的な活用の推進 ②　教職員一人一人の意識改革を図る。 ・出退勤打刻等による勤務時間を意識した働き方 ・担当業務の効率的な実施や見通しを持った計画的な処理	Ａ	【達成状況】 児　童 保護者 地域住民 教職員　７２．７％　↓ 学校業務の効率化については，教職員の肯定的回答が目標を下回っている。各種システムを活用してはいるものの，それを上回る業務内容の多さが原因だと思われる。 【次年度の方針】 ・来年度は，どうやったら効率化が図れるのか，行事の精選や日課の見直しなど，全体で随時検討しながら考えていく。
	Ａ21　学校は，「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は，『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上	①　小中の相互乗り入れ授業を計画的に実施する。 ・年間を見通した計画の作成と実践 ・成果や課題の共有化 ②　小中合同の行事や活動に積極的に取り組む。 ・小中合同のあいさつ運動の推進 ・冒険活動教室での交流 ・宮っ子チャレンジウィークにおける積極的な受け入れ ③　地域学校園組織の活性化を図る。 ・分科会の持ち方の工夫 ・地域学校園内の情報の共有化	Ｂ	【達成状況】 児　童　９６．４％　↑ 保護者　９０．７％　↓ 地域住民　９３．３％　↑ 教職員　９５．５％　↓ 「小中一貫教育・地域学校園」の取組について，児童・保護者・地域住民に十分な理解ができている。 【次年度の方針】 ・地域学校園の小中学校と協力し，継続して取組を行っていく。

<table>
<tr>
<td rowspan="3">目指す学校の姿</td>
<td>Ａ22　学校は，地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。
【数値指標】
全体アンケート
「学校は，家庭・地域・企業等と連携・協力して，教育活動や学校運営の充実を図っている。」
⇒保護者の肯定的回答
90%以上
⇒地域住民の肯定的回答
90%以上</td>
<td>①　地域人材の協力や企業・団体等の専門性を生かした学習を推進する。
・「城央小町の先生」の年間指導計画への位置付け
・小中一貫教育に関わる活動の計画的な実施
・家庭・地域・企業・団体等と連携した活動の広報活動の工夫・充実
②　学校支援ボランティアの有効活用の推進
・授業への支援・協力
・学校環境整備や見守り活動</td>
<td>B</td>
<td>【達成状況】
<table><tr><td>児　童</td><td>９７．０%　↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>９４．２%　↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>９３．３%　↓</td></tr><tr><td>教職員</td><td>１００　%</td></tr></table>学校支援ボランティアや城央小町の先生など，地域の方の協力や活動への理解が得られている。
【次年度の方針】
・今後も地域の教育力や団体等の連携を図り，適切に活用・実施を図っていく。</td>
</tr>
<tr>
<td>Ａ23　学校は，家庭・地域・企業等と連携・協力して，よりよい児童の育成に取り組んでいる。
【数値指標】
全体アンケート
「学校は，家庭・地域・企業等と連携・協力して，教育活動や学校運営の充実を図っている。」
⇒保護者の肯定的回答
90%以上
⇒地域住民の肯定的回答
90%以上</td>
<td>①　地域人材の協力や企業の専門性を生かした学習を推進する。
・「町の先生」の活用
・各育成会や地域行事への積極的な参加
・小中一貫教育に関わる活動の計画的な実施
・家庭・地域・企業等と連携した活動の広報活動の工夫・充実
【Ａ22①再掲】
②　学校支援ボランティアの有効活用の推進
・校外体験学習や授業への支援・協力
【Ａ22②再掲】</td>
<td>B</td>
<td>【達成状況】
<table><tr><td>児　童</td><td>９７．０%　↑</td></tr><tr><td>保護者</td><td>９４．２%　↓</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>９３．３%　↓</td></tr><tr><td>教職員</td><td>１００　%</td></tr></table>学習活動の充実を図るための地域人材の活用を推進することができた。特に企業や地域ボランティア団体と連携し，出前授業を実施することができ，児童の豊かな心の育成に取り組めた。
【次年度の方針】
・学習のねらいを意識し，学習効果がより高まるような地域人材の活用を計画的に進め，豊かな心を持った児童の育成に努める。</td>
</tr>
<tr>
<td>Ａ24　学校は，利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。
【数値指標】
全体アンケート
「学校は，利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」
⇒教職員の肯定的回答
85%以上
⇒保護者の肯定的回答
85%以上</td>
<td>①　校内各所の安全点検を行い，改善や修繕に努める。
・毎月の安全点検の実施
・危険個所等の迅速な報告・修繕
②　危機管理マニュアルの整備と共通理解を図り，不測の事態に備える。
・ＡＥＤ研修の実施
・アレルギー対応（エピペン研修）研修の実施</td>
<td>B</td>
<td>【達成状況】
<table><tr><td>児　童</td><td></td></tr><tr><td>保護者</td><td>９４．６%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td>９３．３%</td></tr><tr><td>教職員</td><td>１００　%</td></tr></table>安全な環境づくりに関する取組は，一定の評価を得ることができた。保護者や地域と連携を図りながら取り組んだ成果といえる。
【次年度の方針】
・学校・保護者・地域・関係機関が相互連携して，安全で安心な学校づくりを推進する。また，迅速な対応や多方面からの情報の収集によって，保護者や地域住民の信頼を得られるように努める。</td>
</tr>
</table>

<table>
<tr>
<td rowspan="2">目指す学校の姿</td>
<td>Ａ25　学校は，学習に必要なＩＣＴ機器や図書等を整えている。
【数値指標】
全体アンケート
「児童は，ＩＣＴ機器や図書等を学習に活用している。」
⇒児童の肯定的回答
90%以上
⇒教職員の肯定的回答
85%以上</td>
<td>①　ＩＣＴの活用による授業の工夫をする。
・パソコン室の効果的活用
・デジタル教科書の活用
・タブレット型パソコン・デジタル機器を活用した授業の展開
・情報モラル教育に関する授業の展開
【Ａ１０①再掲】
②　学校図書館の整備・充実に努める。
・学習内容の時期に合わせた関連図書の整備
・市立図書館を利用した学級文庫や調べ学習用図書の充実
【Ａ１０②再掲】</td>
<td>A</td>
<td>【達成状況】
<table><tr><td>児　童</td><td>８２．４%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>７１．６%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>９５．５%</td></tr></table>授業場面でタブレットやデジタル教科書，図書を使った調べ学習などにＩＣＴ機器や図書等が活用され授業が行われている。
【次年度の方針】
・プログラミング教育が始まることから，より一層の ICT 機器の活用を図っていく。また，ICT 機器活用の実践等について，保護者にも知っていただけるよう，便り等で伝えていく。</td>
</tr>
<tr>
<td>Ｂ３　教職員は児童一人一人の良さや努力を見取り，認め励ます指導を行っている。
【数値指標】
学校独自アンケート
「先生は，自分のよいところを見つけて，ほめてくれる。」
⇒児童の肯定的回答
85%以上
⇒保護者の肯定的回答
85%以上</td>
<td>①　児童の自己肯定感の育成に努める。
・児童が互いに認め合う場の設定
・ほめ励ます指導の徹底
【Ａ５②再掲】
②　児童一人一人を認め励ます指導を推進する。
・職員間の情報交換の推進・機会の確保
・保護者へ児童の良さ等の報告と信頼関係づくり</td>
<td>B</td>
<td>【達成状況】
<table><tr><td>児　童</td><td>９５．８%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>９３．５%</td></tr><tr><td>地域住民</td><td></td></tr><tr><td>教職員</td><td>１００　%</td></tr></table>全体的に肯定的回答が高かった。教職員は，帰りの会や掲示物などを工夫した学級経営を通して，児童のよさを認め合う場を持つよう取り組んだ。また，月に１度の会議の場で情報交換をし合って，学校全体で児童一人一人に目を向けた。
【次年度の方針】
・来年度も，学校全体で児童の自己肯定感の育成に努めていく。</td>
</tr>
</table>

本校の特色・課題等	Ｂ４　学校は，「自然とのかかわり」・「人とのかかわり」の両面から児童一人一人の主体性と豊かな心を育む「まごころ教育」の推進に努めている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「学校は，『自然とのかかわり』・『人とのかかわり』の両面から児童一人一人の主体性と豊かな心を育む『まごころ教育』を推進し，特色ある学校づくりに努めている。」 ⇒保護者の肯定的回答 85%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 85%以上 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上	①　「自然とのかかわり」に関する教育活動の工夫・充実を図る。 ・まごころ広場等での，自然とのふれあいを生かした体験活動 ②　「人とのかかわり」に関する教育活動の工夫・充実を図る。 ・福祉施設や地域高齢者との交流 ・縦割り班活動による人づくり ・地域教育ボランティア「城央小町の先生」の活用	B	【達成状況】 児　童 ／ 保護者　９３．１% 地域住民　１００　% 教職員　１００　% 自然と人とのかかわりのある「まごころ教育」の推進・実施に理解が得られている。 【次年度の方針】 ・道徳を要とした心の教育の実践，まごころ広場の活用との関連を図り，年間指導計画に位置付けた特色ある教育をさらに推進していく。
	Ｂ５　学校は，保護者や地域住民と連携を図りながら，安全で安心な学校づくりに努めている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「学校は，保護者や地域住民と連携を図りながら，安全で安心な学校づくりに努めている。」 ⇒保護者の肯定的回答 90%以上 ⇒地域住民の肯定的回答 90%以上 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上	①　危機管理意識の高揚を図る。 ・定期的な登校・下校指導の実施 ・避難訓練，防犯教室の実施 ・ＡＥＤ研修 ・アレルギー対応（エピペン研修） ・スクールサポーターやまごころサポーター等との連携 ・子ども 110 番の家の確認及び更新	B	【達成状況】 児　童 ／ 保護者　９６．０%　↑ 地域住民　１００　% 教職員　１００　% 安全で安心な学校づくりの取組は，一定の評価を得ることができた。保護者や地域と連携を図りながら取り組んだ成果といえる。 【次年度の方針】 ・学校・保護者・地域住民・関係機関が相互に連携し，安全で安心な学校づくりを推進する。また，多方面から状報を収集したり，迅速に対応したりすることによって，保護者や地域住民からの信頼を得るようにする。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・児童は授業に集中し，進んで学習に取り組む姿勢が見られる。「城央小の学習のきまり」を意識し，学習習慣が身に付いている。アンケート項目Ａ8の英語でのコミュニケーション，Ａ9の宇都宮の良さ　Ａ１０，２５のタブレット等を使用した教育など，様々な教科との関連を図った幅広い教育が求められてくることから，今後も児童の学ぶ意欲をさらに高め，多様な社会の変化に対応できる学力を確実に身に付けさせるために，分かる授業の展開やきめ細かな指導の充実を図っていく。

・Ａ１７「学校は，活気があり，明るくいきいきとした雰囲気である。」の肯定的回答の割合が，児童・保護者・地域住民・教職員とも 90%を上回っており，「みんなが楽しく，城山中央小学校」の実現が図られていると言える。

・Ｂ１「児童は，毎日家庭での学習時間を決めて，集中して取り組んでいる。」の肯定的回答の割合は，児童の数値指標（80%）は上回っているが，保護者の数値指標（75%）は下回っている。家庭学習の習慣化を図るため，学校と家庭が連携するとともに，各種便り等を活用し，啓発をしていく。

・Ａ６「児童は，健康や安全に気を付けて生活している。」については，すべての項目で 85%以上の高い肯定値を示している。健康については，保健だよりや歯磨き，姿勢，歯磨き指導などの啓発活動を行ってきた。食育では，食育だよりの発行，掲示コーナーの積極的な活用や栄養士が発達段階に合わせて指導を実施してきた。体育では，各種頑張りカードの活用によって目標に向かって意欲的に体力向上に取り組むことができた。これらの取組を今後も継続して，健康で安全な生活ができるように指導していきたい。
・Ｂ２「児童は，読書に取り組み，読書を楽しんでしている」において，読書活動の充実を図り，児童の肯定的ポイントが，1.2 ポイント上昇した。また，保護者も 3.3 ポイント上昇し，肯定的回答が目標数値の 70%に達成した。引き続き，読書活動の充実を図っていく。
〇Ａ４「児童は，時と場に応じたあいさつをしている。」の肯定的回答の割合が増した。学校と家庭・地域が連携してあいさつの習慣化に取り組んだ成果が表れてきている。引き続き，様々な機会を通して，保護者に協力を呼び掛け，各家庭におけるあいさつの習慣化を推進したり教職員は，日々の生活場面での指導に根気強く取り組んだりしてあいさつが自然にできる児童の育成を目指す。

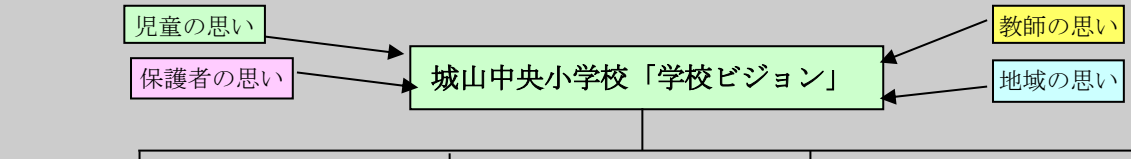
７　学校関係者評価

・Ｂ３「先生は，自分のよいところを見つけて，ほめてくれる。」の数値が高いことがうれしい。やはり「ほめること」は大切である。さらに児童同士が互いを認め合ったうえで，上手に注意できる関係になれるとよい。
〇Ａ４「児童は，時と場に応じたあいさつをしている。」については立場によって認識に差がある。児童は明るく元気であり，低学年の児童の成長も感じることができるが，「挨拶」（特に朝の「おはようございます」）の声が小さい児童が多いのが残念である。「あいさつ運動」をはじめとする活動を実施しているが，期間終了後，元の挨拶に戻ってしまう傾向にある。「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」「いってきます」「ただいま」など基本的挨拶の習慣の定着に向けて，学校・地域・家庭がそれぞれの場面で粘り強く取り組んでいくことが大切であろう。
・Ａ１７「私は，今の学校が好きです。」の児童肯定割合が 100%になるように，「楽しい学校環境づくり」にさらに取り組んでいってほしい。
・Ａ９「宇都宮の良さ」についてもっと理解してほしい。地元「大谷」だけでなく，市全体の良さが理解できるように取り組んでいってほしい。
Ａ１４「先生方は，いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」の保護者の肯定割合が昨年度より下がっていることが気になる。保護者に学校の取組がさらに伝わるようにしていってほしい。
・児童の言葉遣いが気になることがある。挨拶同様，学校・地域・家庭がそれぞれの場面で粘り強く取り組んでいくことが大切であろう。
・学校とより多く関わっていきたいと思っているが限界がある。そのためアンケート項目によっては，回答が難しいものもある。

８　まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に〇印または該当箇所に下線を付ける。

評価項目の見直しが行われ，昨年度に比べ１６項目が新しいものとなった。昨年度から引き続いている評価項目についての児童の肯定的回答の割合は，多くの項目でポイントが上昇した。今年度の取組を継続しつつ新たな取組も実施していくことで，更に地域に信頼され，地域の核となる学校づくりを推進していきたい。そのために，下記のような４つのプロジェクトを組織し，全職員が学校経営に参画できる工夫を行い，次年度の学校ビジョンに反映させていく。



ぐんぐん学習

かしこく（知）

〇「分かる授業」の展開を図るための授業改善
・学び合う学習の推進
〇基本的な学習態度の定着
〇基礎・基本の指導の充実
・外国語活動・外国語科・英会話タイムの充実
・宇都宮・大谷の良さを知ることができる指導の充実
・ＩＣＴ機器や図書等を活用した学習の充実
・持続可能な社会への関心が高まるような学習指導の工夫
〇家庭と連携した家庭学習の推進
・教師の授業力の向上
（一人一授業の実施）
・個別の教育的支援の充実
（特別支援教育の充実）

豊かな心づくり

なかよく（徳）

〇望ましい人間関係の醸成
（あいさつ指導の工夫・道徳の授業の充実）
・家庭や地域と連携した体験活動の充実
〇規範意識の向上
（「城央小のよい子」の遵守）
〇児童指導に関する情報交換，共通理解による指導
〇「まごころ教育」の推進
（勤労奉仕活動の推進・縦割り班活動の充実）
・緑化活動の推進
・宮・未来キャリア教育の推進

楽しく読書

なかよく（徳）

〇読書意欲の醸成
（読書リレーの推進・ボランティアとの連携による読み聞かせ活動の充実・ブックトークの充実）
〇朝の読書タイムや家読必読書の推進による読書量の増加
（保護者向推薦書紹介）
・「絵本のくに」の活用の工夫
・読書及び日常的な国語辞書の活用による語彙力の向上
〇地域学校園の必読書の選定と活用
・学校開放日における保護者への本の貸出

すくすく体づくり

たくましく（体）

・基本的生活習慣の徹底
〇食育の推進
（食事マナー向上・すこやか教室や栄養士による食育の指導）
〇体力増強の工夫充実
（教科体育や体育的行事の充実と体を動かしたくなる体育的環境の整備・元気っ子健康体力チェックやミニマムの目標の意識化と結果の活用）
・地域と連携した児童の登下校の安全確保の工夫
・養護教諭と連携した保健の授業の実施